

2021 年 6 月 21 日

「お客様本位の業務運営に係る方針」に基づく主な取組内容について

ニッセイアセットマネジメント株式会社（社長：大関 洋、以下「当社」）は、経営理念として「資産運用サービスの各場面において、プロフェッショナルとして、お客様に最高の付加価値をご提供することを使命とし」、「お客様にご満足頂くことで、お客様との長い信頼関係を築く」ことを掲げております。

資産運用をとりまく絶え間のない環境変化の中で、お客様から長期にわたって信頼・評価を頂けるよう、受託者としての責任を全うするべく策定した、「お客様本位の業務運営に係る方針」（以下「当方針」）に基づき、2020 年度の当社の主な取り組みと定着度合を確認するための定量指標（KPI）の状況を（別紙 1）にお示し致します。また、今年度から金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」（以下「顧客本位原則」）における原則及び(注)と当方針の対応関係についてもお示ししております。

当社は、日本生命グループの資産運用会社です。日本でも有数の規模の資産を運用する機関投資家のひとつである日本生命保険相互会社（社長：清水 博、以下「日本生命」）が、長年にわたる資産運用で培ってきた運用ノウハウを活かし、生命保険の資産運用の特徴でもある「長期的」「安定的」な資産運用を年金基金や投資信託のお客様にご提供しています。その中から（別紙 1）では、特に、個人投資家の方々に向けた取組内容を中心にお示ししております。

今後も、常にお客様に誠実かつ真摯に向き合い、お客様の長期的な資産形成や社会の発展に貢献するべく取り組んでまいります。

以 上

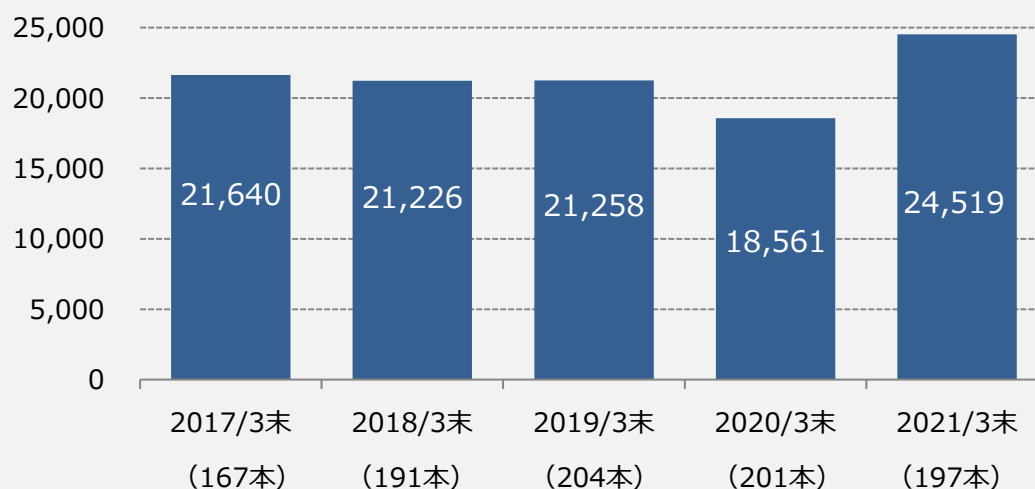
2020 年度 お客様本位の業務運営に係る主な取組内容

当社は、2017 年 6 月 26 日策定の「お客様本位の業務運営に係る方針」に基づく 2020 年度の主な取組内容を、以下のとおり 6 つのカテゴリー毎にご報告致します。また、当社のお客様本位の業務運営に係る取り組みの定着状況をお示しする定量指標（KPI）もあわせて掲載しております。

■ 定量指標（KPI）公募投資信託全体の純資産総額

私たちが、お客様の大切な資産の運用を担うにあたり、何より大切と考えていることは「お客様から長期にわたって信頼頂く」ことです。お客様から信頼頂き、中長期的な資産形成のお役に立っているかを計る定量指標（KPI）の一つとして、図表 1 のとおり当社の公募投資信託全体の純資産総額の推移をお示し致します。

【図表 1】公募投資信託全体の純資産総額の推移（億円）



* ()内は公募投資信託のファンド本数

引き続き、お客様の資産形成に長期にわたって貢献し、お客様一人一人のサクセス・パートナーとなることを目指し、“ニッセイアセット”ならではの高度な運用力と特徴ある商品ラインアップの提供に取り組んでまいります。

- ・お客様の「長期的」「安定的」な資産形成に貢献する商品を提供します。
- ・お客様のニーズを的確に把握・予測し、お客様にご満足いただける当社ならではの商品開発を実践します。
- ・お客様にご提供する運用商品、お客様サービスに応じた手数料水準を設定します。

当社では、お客様の資産形成に貢献するために、幅広いニーズにお応えべく多様な運用商品の提供に取り組んでおります。以下では、中長期の資産形成ニーズにお応えする 2020 年度の取り組みのうち、代表的なものをご報告致します。

長期の資産形成ニーズにお応えすると共に投資を通じて国際社会の課題解決に貢献できる「ニッセイ SDGs グローバルセレクトファンド」の立ち上げを、2018 年度の主な取り組みとしてご報告致しました。当ファンドは、提供する製品・サービスを通じて、SDGs 達成にプラスの貢献をしている企業群の中から、当社が長年にわたって築き上げてきた ESG 投資についての運用・リサーチ体制とノウハウを活かし、SDGs 関連事業の企業価値向上への貢献度が高く、株価の上昇も期待できる企業に厳選投資しています。

決算回数と組入外貨建資産に関する為替変動リスクのヘッジのあり・なしの違いで 4 商品を展開していますが、2021 年 3 月末現在 4 商品合計で純資産総額 670 億円に成長しました。また、Morningstar Award “Fund of the Year 2019”の ESG 型部門における優秀ファンド賞を受賞※1しております。SDGs は国連が掲げる持続可能な開発目標であり、引き続き 2030 年に向けた中長期的な投資テーマであると当社は考えています。

※1：当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2019年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。ESG型部門は、2019年12月末において当該部門に属するファンド103本の中から選考されました。

(ご参考)

上記ファンドの情報につきましては、以下 URL をご覧ください。

・ニッセイ SDGs グローバルセレクトファンド

2018 年度「お客様本位の業務運営に係る方針」に基づく主な取組内容について

： https://www.nam.co.jp/news/ipdf/190626_press2.pdf

・ニッセイ SDGs グローバルセレクトファンド

資産成長型・為替ヘッジあり： <https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsgsfs1/main.html>

資産成長型・為替ヘッジなし： <https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsgsfs2/main.html>

年 2 回決算型・為替ヘッジあり： <https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsgsf21/main.html>

年 2 回決算型・為替ヘッジなし： <https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsgsf22/main.html>

1 - (2) <購入・換金手数料なし> シリーズの取り組み

■ 低コストかつシンプル（インデックス運用）で分かりやすい<購入・換金手数料なし> シリーズ

当社では、<購入・換金手数料なし> シリーズを提供しております。このシリーズはインデックスファンドとして運用内容がシンプルで分かりやすいことに加え、「低コスト」にもこだわっており、購入時や換金（解約）時に手数料のご負担が無いだけでなく、信託報酬を相対的に抑制しているという特徴があります。

■ シリーズ商品に新たに「ニッセイ世界株式ファンド（GDP 型バスケット）」を追加

2020 年 6 月に「<購入・換金手数料なし> ニッセイ世界株式ファンド（GDP 型バスケット）」を、新たなシリーズ商品として開発・提供を開始しました。当ファンドは毎年公表される名目 GDP 総額の比率に基づき地域別の株式投資割合を毎年見直します。そのため、世界経済の変化に適応しながら長期的な投資元本の成長を目指すため、お客様の中長期的な資産形成に貢献しうる商品と当社は考えています。

(ご参考)

＜購入・換金手数料なし＞ニッセイ世界株式ファンド（GDP 型バスケット）の情報につきましては、以下 URL をご覧ください。

<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nskfgb/main.html>

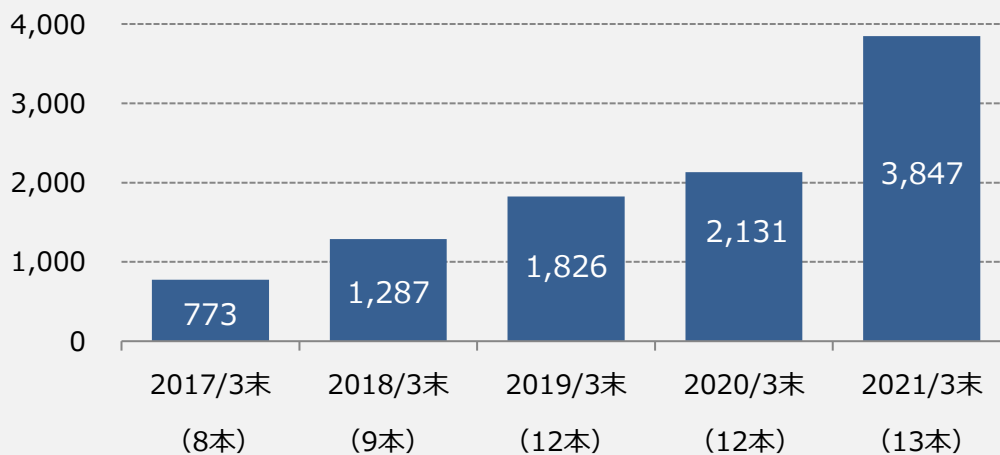
＜購入・換金手数料なし＞シリーズについての詳細は、以下 URL をご覧ください。

<https://www.nam.co.jp/fundinfo/special/indexfund/index.html>

■ 定量指標（KPI）＜購入・換金手数料なし＞シリーズの純資産総額

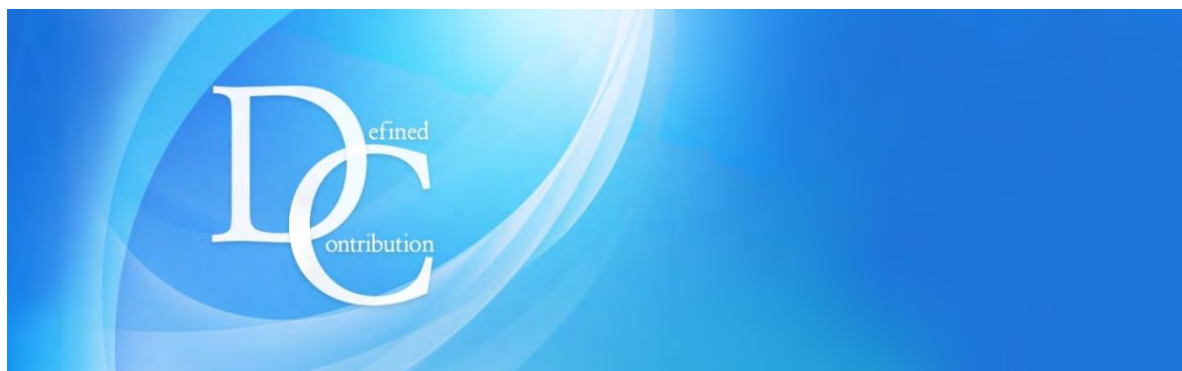
当社は、低コストかつシンプルで分かり易い商品である当シリーズの成長は、お客様の中長期的な資産形成への貢献度合いを計る定量指標（KPI）の一つであるとして、図表 2 のとおり＜購入・換金手数料なし＞シリーズの純資産総額の推移をお示し致します。

【図表 2】＜購入・換金手数料なし＞シリーズの純資産総額の推移（億円）



* ()内は＜購入・換金手数料なし＞シリーズのファンド本数

1－（3）確定拠出年金（DC）向け商品の取り組み



■ 確定拠出年金向け「DC ニッセイおまかせバランスファンド（愛称：つみたて上手）」シリーズを開発

確定拠出年金（DC）による資産形成は、重要度が更に高まると考えており、お客様の長期的な資産形成に貢献する商品を提供できるよう、不断の努力を続けております。その一環として、2020年10月、2021年1月に、様々な資産に分散投資をすることで、市場環境に左右されにくく、安定した収益実現を目指すバランス型商品をリスク・リターン水準の異なる3ファンド提供致しました。

商品名	愛称	設定日	中長期に 目指す収益
DC ニッセイおまかせバランスファンド （安定）	つみたて上手（安定）	2020年10月	年率 1.5% 程度※2
DC ニッセイおまかせバランスファンド （安定成長）	つみたて上手（安定成長）	2021年1月	年率 2.5% 程度※2
DC ニッセイおまかせバランスファンド （成長）	つみたて上手（成長）	2021年1月	年率 3.5% 程度※2

※2：信託報酬控除前

（ご参考）

DC ニッセイおまかせバランスファンドの情報につきましては、以下 URL をご覧ください。

安定： https://www.nam.co.jp/fundinfo/dcnobf_a/main.html

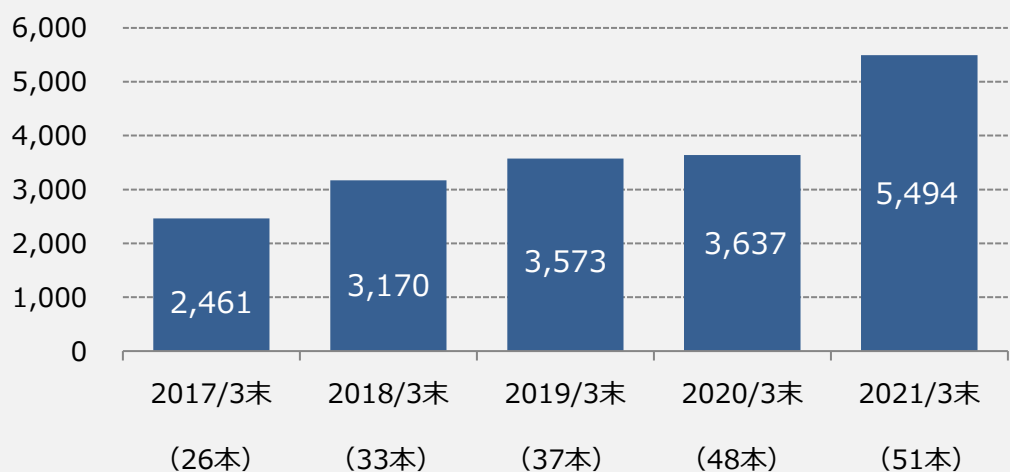
安定成長： https://www.nam.co.jp/fundinfo/dcnobf_as/main.html

成長： https://www.nam.co.jp/fundinfo/dcnobf_s/main.html

■ 定量指標（KPI）確定拠出年金向け商品の純資産総額

退職に向けて投資頂く確定拠出年金向け商品の成長も、お客様の中長期的な資産形成への貢献度合いを計る定量指標（KPI）の一つであるとして、図表3のとおり当該商品の純資産総額の推移をお示し致します。

【図表3】確定拠出年金向け商品の純資産総額の推移（億円）



* ()内は確定拠出年金向け商品のファンド本数

【方針 2】 お客様サービス

- ・ 全役職員がお客様の利益を第一に考えたサービスを提供するとともに、お客様サービスの向上に継続的に取り組みます。
 - ・ お客様に最良の選択をして頂けるよう、お客様に合った適時適切な情報提供を行います。
-

（「顧客本位原則」における 原則 5 及び(注 1,3,4,5),原則 6 及び(注 3,5)に対応しています。）

当社では、投資経験の浅い方や馴染みのない方を含めて、幅広いお客様にご利用頂けるよう情報発信等のサービスに取り組んでおります。

2 お客様に親しみを感じて頂けるような情報発信の取り組み



■ 投資家との直接のコミュニケーション

コロナウイルス感染防止の観点から、お客様を会場に集めてのセミナー開催は困難になっています。そこで当社では、2020 年度にはオンラインセミナーを開催し、お客様との直接のコミュニケーションを絶やさないようにまいりました。投信つみたてや資産運用全般をテーマとした「インデックス・オンラインセミナー」では、講師にインデックス投資家に人気の高いカン・チュンド氏や竹川美奈子氏をお招き致しました。資産運用のコツを投資初心者にも分かりやすくお伝えする試みでしたが、延べ 828 人の皆さまにご参加いただきました。また、「げんせん投信」のお客様向けセミナーとして、これまで当社オフィスで開催してきた「げんせんトークラウンジ」も、2020 年度はオンラインによる運営に切り替えて 6 月 19 日に実施しました。いずれのセミナーも、場所を選ばないオンラインのメリットが最大限に活かされ、参加者からもご好評をいただくことができました。

さらに当社商品の取扱販売会社が主催するお客様向けセミナーもオンラインでの開催が常態化しています。当社社員も講師として市場環境やファンドの運用状況に関する情報を積極的に提供しています。セミナー会場まで足を運ぶことなくご参加いただけるオンラインセミナーについては、お客様のニーズを丁寧に汲み取りながら、今後も継続的に行っていきたいと考えています。

インデックス・オンラインセミナー

	開催日	テーマ
①	2020 年 8 月 27 日	＜購入・換金手数料なし＞ オンライン対談セミナー カンさんに聞く！ with コロナ時代の「つみたて投資の極意」
②	2020 年 12 月 15 日	SBI 証券×＜購入・換金手数料なし＞ シリーズセミナー FP 竹川美奈子さんが解説！リタイアに備える 50 代以降の資産運用
③	2021 年 1 月 25 日	SBI 証券×＜購入・換金手数料なし＞ シリーズセミナー FP 竹川美奈子さんが解説！お金を長持ちさせるリタイア後の資産運用

■商品説明動画・運用報告動画の充実

これまでもお客様に当社のファンドを分かりやすくお伝えする為、ホームページのコンテンツ「ちょこっと3分！ファンドシアター」などにおいて、商品説明動画を掲載してまいりました。2020 年度はコロナウイルス感染拡大に伴い、対面でお客様に商品の内容や運用状況をお伝えすることが困難になりました。こういった環境の変化を受け、当社では商品内容や運用状況を分かりやすく動画にまとめ、当社ホームページへ掲載することで、お客様に PC やスマートフォンでご視聴いただける取り組みを強化してまいりました。

また、世の SDGs への関心の高まりを受けて設置した特設サイト「今、話題のキーワードと“SDGs”」および「ニッセイ SDGs グローバルセレクトファンド」の商品ページに、『「SDGs × イノベーション」のチカラ』、『ウィズコロナの資産運用 当ファンド 3 つの特徴』（講師にフリーアナウンサーの渡辺真理氏を起用）の動画 2 本を掲載致しました。こうした動画をご視聴いただくことで、SDGs のコンセプトやファンドの商品内容をビジュアルでご理解いただけるようになっています。



(ご参考)

ニッセイ SDGs グローバルセレクトファンドの情報につきましては、以下 URL をご覧ください。

年 2 回決算型・為替ヘッジあり : <https://www-dev.nam.co.jp/fundinfo/nsgsf21/main.html>

年 2 回決算型・為替ヘッジなし : <https://www-dev.nam.co.jp/fundinfo/nsgsf22/main.html>

資産成長型・為替ヘッジあり : <https://www-dev.nam.co.jp/fundinfo/nsgsfs1/main.html>

資産成長型・為替ヘッジなし : <https://www-dev.nam.co.jp/fundinfo/nsgsfs2/main.html>

◆特設サイト「今、話題のキーワードと“SDGs”」

<https://www-dev.nam.co.jp/fundinfo/special/sdgs/index.html>

また、お客様にご好評いただいているファンドについては、商品の概要を伝える本編動画に加え、その商品の特徴のいくつかを取り出して短くまとめたスピンオフ動画をホームページに掲載しました。時間のないお客様にも、知りたい情報をピンポイントかつコンパクトにお伝えする工夫です。



(ご参考)

◆ニッセイ世界リートオープン（毎月決算型）

<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsrom/main.html>

◆ニッセイ世界リートオープン（年2回決算型）

<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsro2/main.html>

動画で理解度アップ！ファンド徹底解説

◆概要編

まずはコレ！ファンド概要編

<https://www.youtube.com/watch?v=J3Se7EFIszs>

◆詳細編

リートとは？グローバルリートとは？

<https://www.youtube.com/watch?v=1TXUA6KGCgQ>

「高利回り」「安定性」について

<https://www.youtube.com/watch?v=GgIqT10r3Hw>

「成長性」について

<https://www.youtube.com/watch?v=yw7a5vNgu9g>

分配金の状況について

<https://www.youtube.com/watch?v=UQQga-gO7xw>

さらに今年度は、対面での運用報告会の実施が困難となったことを受け、主要ファンドの足元の運用状況をまとめた動画をホームページに掲載するだけでなく、受益者の皆さまに動画掲載をお知らせすることで、多くの方々にご視聴いただく取り組みを行いました。



(ご参考)

◆ニッセイ豪州ハイ・インカム株式ファンド（毎月決算型）【愛称：ラッキー・カントリー】

<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nghikf/main.html>

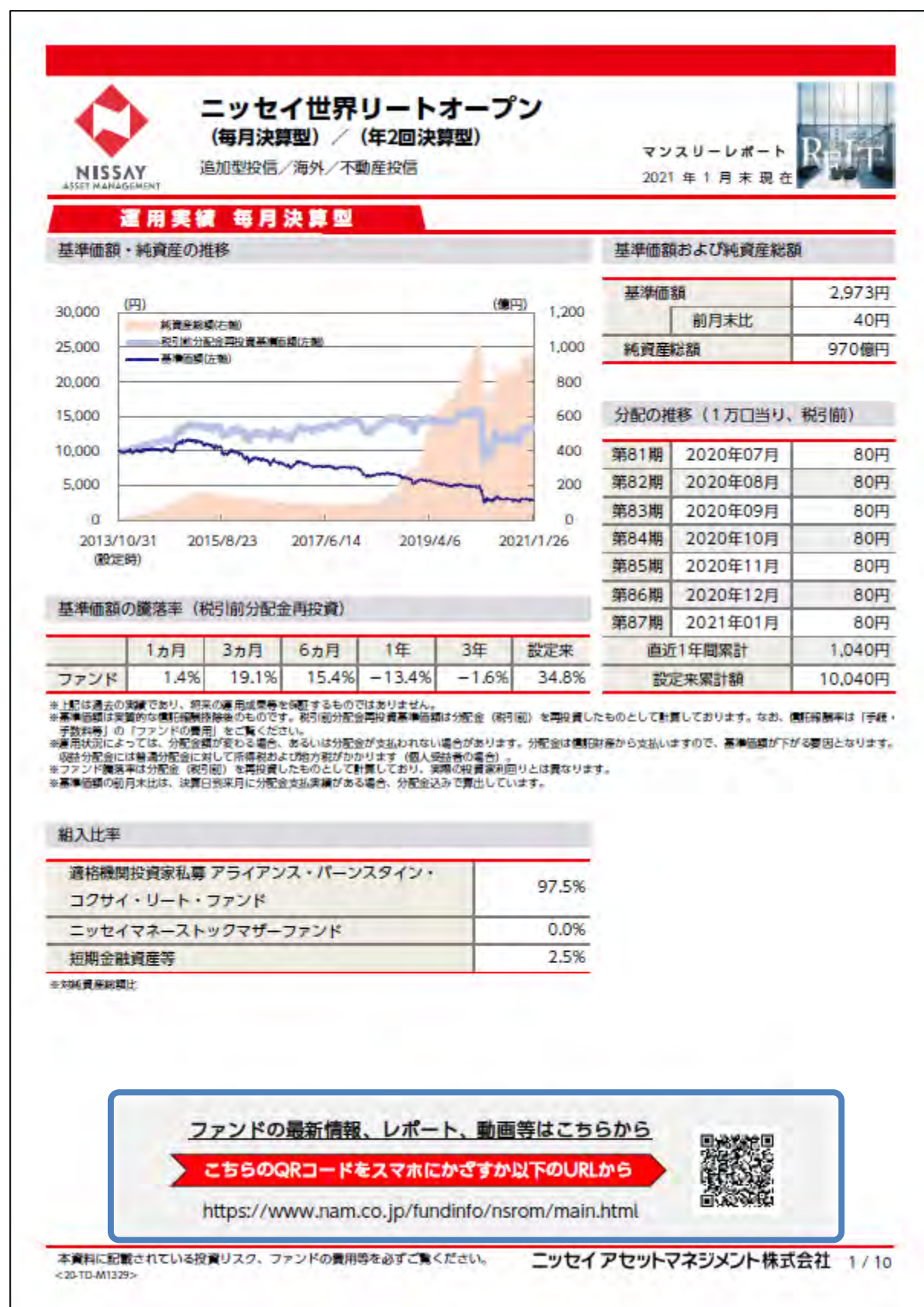
◆ニッセイ豪州ハイ・インカム株式ファンド（資産成長型）【愛称：ラッキー・カントリー（資産成長型）】

<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nghikfs/main.html>

◆足もとの運用状況と投資環境をわかりやすく解説

<https://www.youtube.com/watch?v=UWNLrpjXsc0>

マンスリーレポート（月報）にQRコードやURLを表示することで、スマートフォンなどから動画のほかファンドの最新情報に簡単にアクセスできるような取り組みも始めています。



【方針3】運用

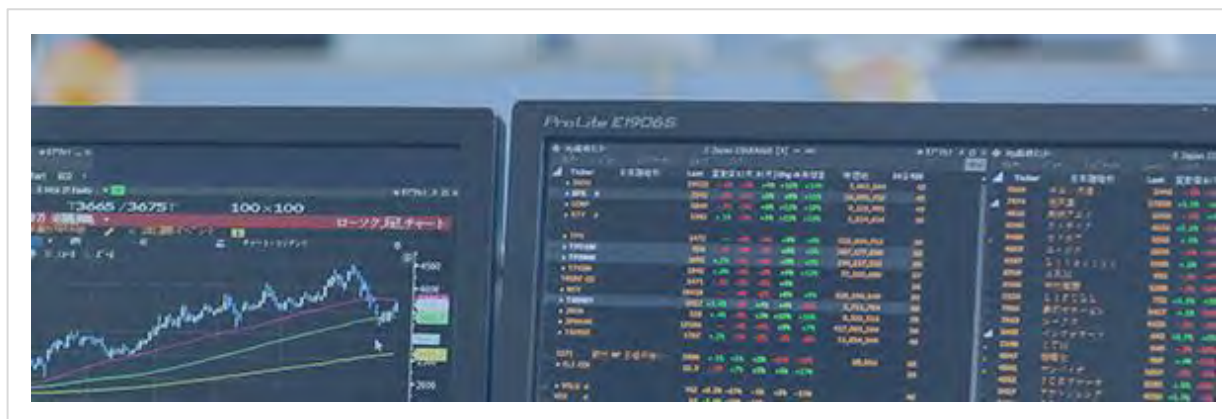
- ・継続的な運用力強化への取り組みとリスク管理の徹底を通じて、お客様の長期的な資産形成に貢献します。
- ・スチュワードシップ・コードに基づき、ESG 投資等を推進することで投資先企業の価値向上とお客様の資産形成の実現に努めます。

(「顧客本位原則」における 原則 6 及び(注 3)に対応しています。)

当社は、確固たる運用哲学に基づき、一貫した規律ある運用サービスを提供します。幅広いリスク管理体制を通じ、短期的な変動ではなく、長期的な超過収益を確保することを目指し、その達成に向け、経験豊かかつ結束力のある強力な投資チームが再現性のある運用を行うことに努めています。また、資産運用のプロフェッショナルとして、様々な投資手法の研究開発などを通じ、運用力の強化に取り組んでいます。

以下では、当社運用における代表的な取り組みとして「ESG 投資等の推進」および「運用手法の研究・開発推進」について、ご紹介を致します。

3 - (1) ESG 投資等推進の取り組み



■ 企業との対話の取り組み

当社は、お客様の中長期的なリターン向上を目的とした調査・投資活動を運用プロセスの中核としています。例えば、当社の株式運用では、約 20 名のアナリストによる徹底した企業調査を実施します。2004 年より導入している長期の業績予想に基づく企業価値評価を実施、企業の財務情報のみならず、積極的な対話を通じた非財務情報の収集・分析を重視しております。このプロセスにおいて重要となるのは「企業との対話」です。実りある対話が、投資先企業の企業価値向上および市場からの評価向上につながり、結果的にお客様と投資先企業の共創が果たされるよう努めております。

■ ESG への取り組み

・国連責任投資原則（PRI）の年次評価で「A+」を 6 年連続獲得

企業の持続的成長力を測るため、独自の ESG 評価を運用プロセスに組み込んでいます。特に ESG 評価では、その重要性を提唱する PRI（国連責任投資原則）に賛同し、その発足した 2006 年に署名を行う等、長きにわたり取り組みを継続しております。2008 年に国内株で ESG 評価を開始しましたが、現在では国内社債運用の信用リスク評価でも ESG の視点を採り入れています。また、ニッセイグループの海外拠点とも独自の ESG 評価を共有化することで、海外拠点のアナリストも同じ視点で評価を実施し、グローバル運用力強化に繋がっています。

2020 年度の「国連責任投資原則（PRI）の年次評価」においては、ESG 運用に関する方針や体制を評価する「戦略とガバナンス」部門で最高評価「A+」を 6 年連続で獲得するとともに、上場株式における ESG 要素の財務分析への組み入れを評価する上場株式（直接運用）における「ESG 統合」部門でも 5 年連続で「A+」を獲得しました。加えて、上場株式におけるエンゲージメントや議決権行使の取り組みを評価する上場株式（直接運用）の「アクティブオーナーシップ」部門において 3 年連続で「A+」を獲得、（外部運用）の「上場株式」部門においても 2 年連続で「A+」を獲得しました。

また、PRI（Principles for Responsible Investment）※3 が主催する PRI Digital Conference において、リードスポンサーに選出されました。PRI Digital Conference は、2021 年 10 月 18～21 日の間、オンラインで開催され、運用会社やアセットオーナーをはじめとするグローバルな機関投資家や有識者等が集い、気候変動や人権問題、そして企業統治などの ESG を巡る重要な課題が議論されます。



Lead Sponsor

18-21 October, 2021

・「スチュワードシップレポート 2020」を発行

当社のスチュワードシップ活動の取り組みを紹介した、「スチュワードシップレポート 2020」を発行しました。当レポートは 2 部構成となっており、第 1 部では、ESG・スチュワードシップ活動の取り組み状況や、今後の方向性などを、第 2 部では、『責任ある機関投資家』の諸原則《日本版スチュワードシップ・コード》への当社の取り組み方針に対する原則ごとの実施状況について、「スチュワードシップ活動の振り返りと自己評価」を掲載しています。

当社では、2008 年から ESG 評価に取り組み、スチュワードシップ活動の土台を築いてまいりました。資産運用に関わる専門家として、長期的な投資収益の改善に繋げ、「お客様から長期にわたって信頼頂く」ことを実現するために実施してきた当社のスチュワードシップ活動には主に 3 つの特徴がありますので、ご紹介を致します。

特徴 1. 長期投資家として、ESG 評価・中長期業績予想を行い、企業のサステナビリティを把握しています。

当社では、2004 年に企業の 5 年先までの中長期業績予想を行って企業価値を算出するリサーチプラットフォームを導入しました。そして、中長期業績予想の確信度を深め、企業のサステナビリティ（中長期的な持続可能性）を把握するための軸として、上場株式の ESG 評価を 2008 年に開始しました。過去 10 年超にわたるこれらの取り組みにより、ポートフォリオマネジャー・アナリストの長期志向が醸成されました。

特徴 2. 企業に精通しているセクターアナリストがリサーチから対話、議決権行使まで一貫通貫、ワンストップで実施しています。

当社では、ESG 専任のアナリストではなく、セクターアナリストが主なスチュワードシップ活動を実施します。企業の状況を的確に把握しているセクターアナリストが一連のスチュワードシップ活動を担うことで、企業価値に影響のあるマテリアリティを捉え、各活動に相乗効果を生み出すことができると考えています。

特徴 3. 2008 年から ESG 評価を実施し、豊富で良好なトラックレコードを保有しています。

当社では、ESG 評価をお預かりした資産の長期安定的なパフォーマンスを向上させるための手段と考えています。当社の ESG 評価とそのパフォーマンスの間には、10 年超にわたる良好な関係が確認できます。

詳細につきましては、以下 URL をご覧ください。

「スチュワードシップレポート 2020」:

<https://www.nam.co.jp/company/responsibleinvestor/pdf/shreport2008.pdf>

(ご参考)

「『責任ある機関投資家』の諸原則《日本版スチュワードシップ・コード》」への当社の取り組み方針につきましては、以下 URL をご覧ください。

<https://www.nam.co.jp/company/responsibleinvestor/stewardship.html>

その他、金融庁より受託しておりました調査研究レポート「上場株式投資におけるインパクト投資活動に関する調査報告書」が公表されました※4。

※3：PRI（Principles for Responsible Investment）は、国連の提唱により 2006 年に策定された、環境・社会・企業統治（ESG）における諸課題を投資の意思決定プロセスに反映させること等を定めた原則であり、当社は 2006 年に同原則に署名しました。

※4：金融庁のホームページ：<https://www.fsa.go.jp/common/about/research/20200420/20200420.html>

■ 定量指標（KPI） KPI 達成ファンド

当社では、お客様の資産形成に貢献すべく、中長期にわたり投資頂ける良好なパフォーマンスをあげているアクティブ運用ファンドの本数を増やしていくことも使命だと考えております。この取り組みを計るための定量指標（KPI）として、昨年度までは、「主な投資対象を国内株式とする投資信託ファンドの中から、設定来で市場全体を上回るパフォーマンスをあげており、かつ、純資産総額が100億円以上のファンド」をお示し致しました。今年度からは、これまで以上にお客様の資産形成に資するファンドの状況をお伝えするため、投資対象資産を拡大し「当社インハウスで運用する投資信託ファンドの中から、設定来で市場全体を上回るパフォーマンスをあげており、かつ、純資産総額が100億円以上のファンド」をお示しすることに致しました。図表4をご覧ください。

【図表4】KPI 達成ファンド

KPI 達成ファンドの本数を増加させるために、設定来で市場全体を上回る良好なパフォーマンスを達成すること、および良好なパフォーマンスの商品をお客様へお届けできるようなサービス提供に取り組みます。

基準日：2021年3月31日現在

ファンド※5		主な投資対象資産	設定年月	設定来騰落率※6		超過収益率 ③＝①－②
名称	特色等			ファンド①	市場全体②	
ニッセイ日本株グロスオープン【生活3C】	・健全な生活＝Clean, 創造的な生活＝Creative, 快適な生活＝Comfortableの創出に貢献する「3C」企業に投資	国内株式	2000年2月	+3.91%	TOPIX +2.39%	+1.52%
ニッセイ健康応援ファンド	・成長が見込まれる健康関連産業に厳選投資 ・当社の強みであるESGも銘柄選択に活用	国内株式	2008年4月	+10.90%	TOPIX +5.08%	+5.82%
ニッセイJPX日経400アクティブファンド	・優れた経営効率と利益成長力を有し、株価の上昇が期待される銘柄に厳選投資	国内株式	2014年2月	+11.51%	TOPIX +9.45%	+2.06%
ニッセイSDGsグローバルセレクトファンド	・SDGs達成に関連した事業を展開する企業の中から、株価上昇が期待される銘柄を厳選して投資	外国株式（日本含）	2018年5月	+18.03%	MSCI World +13.37%	+4.66%
ニッセイ宇宙関連グローバル株式ファンド【スペース革命】	・日本を含む世界各国の宇宙関連企業の株式に厳選投資	外国株式（日本含）	2018年11月	+16.97%	MSCI World +15.54%	+1.43%
ニッセイ安定収益追求ファンド【みらいのミナリ】	・内外の債券を中心に投資 ・内外株式の組入れ等により、ファンド全体のリスク抑制をめざす	絶対収益	2013年7月	+0.09%	絶対収益型ファンドのため、市場全体及び超過収益率の記載はございません。	

※5：KPI 達成ファンドの純資産総額には、ファンドラップの残高を含めております。

※6：ファンドの設定来騰落率は分配金（税引前）を再投資した基準価額をもとにして計算しております。年率換算のため、設定月末の数値を掲載しております。市場全体もファンドと同期間の年率換算した数値です。比較対象の市場全体リターンは TOPIX（配当込み）もしくは MSCI World インデックス(配当込み税引き後円換算ベース)です。なお、「円換算ベース」とは MSCI Inc.が公表している指数をもとに、当社が独自に円換算したものです。

※7：ニッセイ SDGs グローバルセレクトファンド及びニッセイ宇宙関連グローバル株式ファンドは資産成長型・為替ヘッジなしコースをお示ししています。

以下の【図表 5】に掲載の数値も同様です。

参考として、当社の強みとして考えている ESG の取り組みをお伝えするために、主な特色に ESG や SDGs の視点をあげている当社ファンド^(*)のパフォーマンスの状況を以下【図表 5】にお示します。

(*)株式会社野村総合研究所（以下「NRI」）が公表している、追加型公募投資信託を対象とした「Fundmark 投信評価レポート」における Fundmark 国内株式 ESG カテゴリ（以下「国内株式 ESG カテゴリ」）、Fundmark 海外株式 ESG カテゴリ（以下「海外株式 ESG カテゴリ」）に含まれ、設定来のパフォーマンスが市場全体を上回っているファンド

- ・国内株式 ESG カテゴリ：国内の株式を主要投資対象とし、実質的な組入比率が高位であるものに投資するもの
のうち主として、ESG（環境・社会・ガバナンス）や SDGs のテーマに特化した投資信託
- ・海外株式 ESG カテゴリ：海外内外の株式を主要投資対象とし、実質的な組入比率が高位であるものであり、
実質の海外資産比率が 30%を越えるもののうち、ESG（環境・社会・ガバナンス）や SDGs のテーマに特化した投資信託

（ご参考）【図表 5】国内株式 ESG カテゴリ・海外株式 ESG カテゴリの当社ファンド

基準日：2021 年 3 月 31 日現在

ファンド※5		主な投資 対象資産	設定 年月	設定来騰落率※6		超過 収益率 ③＝①-②
名称	特色等			ファンド①	市場全体②	
日本株式 セレクト 【アクティブ・ウーマン】	・「女性の活躍促進」「経営効率・利益 成長力」に着目し、投資銘柄を厳選	国内株式	2014年 12月	+9.03%	TOPIX +7.81%	+1.22%
ニッセイ SDGs ジャパンセレクト ファンド	・SDGs達成に関連した事業を展開する 企業の中から、株価上昇が期待される 銘柄を厳選して投資	国内株式	2018年 2月	+7.11%	TOPIX +5.99%	+1.12%
日本株式 ESG 資産形成 ファンド	・徹底した調査・分析に基づき、ESGに 対する取組みに優れ、株価上昇が期 待される銘柄を選定 ・当ファンドは確定拠出年金向け商品	国内株式	2018年 12月	+20.08%	TOPIX +15.61%	+4.47%
ニッセイ 日本株 ESGフォーカス ファンド 【ESGジャパン】	・徹底した調査・分析に基づき、ESGに 対する取組みに優れ、持続的な企業 価値向上が期待される銘柄に厳選投 資	国内株式	2019年 5月	+23.54%	TOPIX +17.96%	+5.58%
ニッセイ SDGs グローバル セレクト ファンド	・SDGs達成に関連した事業を展開する 企業の中から、株価上昇が期待される 銘柄を厳選して投資	外国株式 (日本含)	2018年 5月	+18.03%	MSCI World +13.37%	+4.66%

※8：ニッセイ SDGs ジャパンセレクトファンド及びニッセイ日本株 ESG フォーカスファンドは資産成長型コースをお示ししています。

(ご参考)

【図表 4】及び【図表 5】で掲載のファンドの情報につきましては、以下 URL をご覧ください。

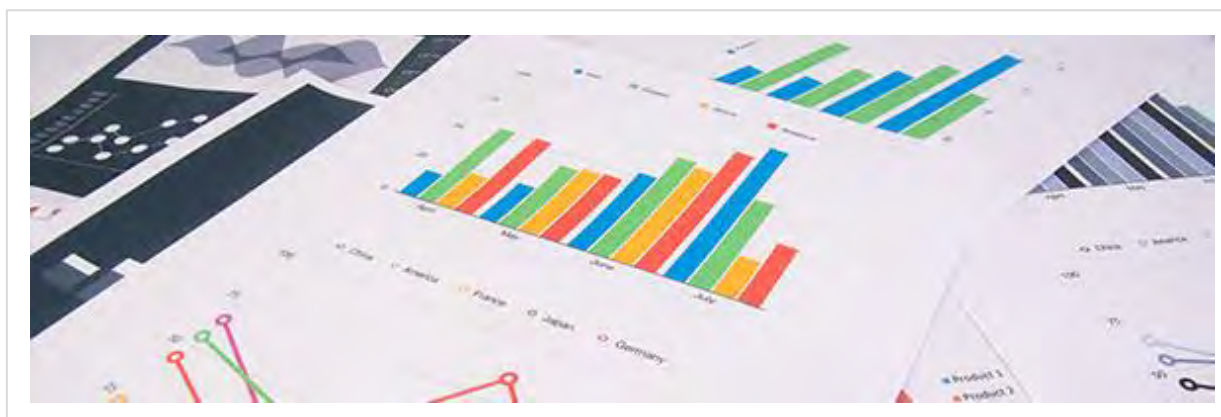
【図表 4】掲載のファンド

- ・ニッセイ日本株グロースオープン【愛称：生活 3C】
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nngo/main.html>
- ・ニッセイ健康応援ファンド
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nkof/main.html>
- ・ニッセイ JPX 日経 400 アクティブファンド
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/njn4af/main.html>
- ・ニッセイ SDGs グローバルセレクトファンド（資産成長型・為替ヘッジなし）
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsgsfs2/main.html>
- ・ニッセイ宇宙関連グローバル株式ファンド（資産成長型・為替ヘッジなし）【愛称：スペース革命】
https://www.nam.co.jp/fundinfo/nukgkfs_b/main.html
- ・ニッセイ安定収益追求ファンド【愛称：みらいのミナリ】
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nastf/main.html>

【図表 5】掲載のファンド

- ・日本株式セレクト【愛称：アクティブ・ウーマン】
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nnksaw/main.html>
- ・ニッセイ SDGs ジャパンセレクトファンド（資産成長型）
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsjsfs/main.html>
- ・日本株式 ESG 資産形成ファンド
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/dcneskf/main.html>
- ・ニッセイ日本株 ESG フォーカスファンド（資産成長型）【愛称：ESG ジャパン】
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nneffs/main.html>
- ・ニッセイ SDGs グローバルセレクトファンド（資産成長型・為替ヘッジなし）
<https://www.nam.co.jp/fundinfo/nsgsfs2/main.html>

3 - (2) 運用手法の研究・開発推進の取り組み



■「投資工学開発部」の取り組み

運用手法の研究・開発の取り組みの成果やその内容をお伝えするものとして、個人投資家の方々に金融・経済に興味を持って頂けるよう身近なトピックと経済の関係をとり上げたレポート「景気や株価の意外な法則」を作成しホームページに掲載しております。加えて、「クオンツ・トピックス」として、市場動向の分析・予測等を行ったレポートもご提供させて頂いております。

2020 年度発行の「景気や株価の意外な法則」のタイトル一覧（レポートは、以下 URL をご覧ください。）

掲載日	タイトル
2020 年 6 月 8 日	長期投資スタンスで注目のガバナンス（1） https://www.nam.co.jp/market/column/hosoku/2020/200608.html
2020 年 8 月 27 日	「ミクロ・サプライズ指数」は上昇 https://www.nam.co.jp/market/column/hosoku/2020/200827.html
2020 年 9 月 17 日	長期投資スタンスで注目のガバナンス（2） https://www.nam.co.jp/market/column/hosoku/2020/200917.html
2020 年 10 月 5 日	2 つの ROE を使った投資戦略 https://www.nam.co.jp/market/column/hosoku/2020/201005.html
2020 年 11 月 5 日	長期投資スタンスで注目のガバナンス（3） https://www.nam.co.jp/market/column/hosoku/2020/201105.html
2021 年 1 月 12 日	株式市場のバリュエーションに関する考察 https://www.nam.co.jp/market/column/hosoku/2021/210112.html

【方針4】経営インフラ

- ・独立社外取締役の招聘により、ガバナンス体制の独立性・透明性を向上させることで、お客様の利益を最優先する取り組みを推進していきます。
 - ・受託者責任を全うするため、人材など経営資源の適切な配分を進めていきます。
 - ・「アドバイザリー・コミッティ」を通じて、社外の有識者の助言を受け、当社の業務運営に反映させていきます。
 - ・お客様の利益に適う施策を適切に実施するよう、取締役会の委任を受けた「フィデューシャリー・デューティー委員会」を通じて、内部統制体制を強化します。
-

（「顧客本位原則」における 原則 7 及び(注)に対応しています。）

当社では、「アドバイザリー・コミッティ」※9を通じて、お客様の声を当社の業務運営に反映するとともに、「フィデューシャリー・デューティー委員会」による定期的な PDCA を行い、お客様本位の業務運営の取り組みの推進に日々努めております。

※9：「アドバイザリー・コミッティ」は、当社のお客様本位の業務運営を推進するにあたり、社外有識者の方々との意見交換を目的に定期的に開催しております。

4 アドバイザリー・コミッティの開催状況



■ 2020 年度アドバイザリー・コミッティを計 4 回開催

2020 年度は「アドバイザリー・コミッティ」を計 4 回開催致しました。主な意見交換のテーマは以下のとおりです。

アドバイザリー・コミッティの主な意見交換のテーマ

- ・公募投資信託領域における好パフォーマンス商品を増やす取り組み/品質管理の枠組み強化に向けて
- ・公募投資信託営業における CS 改善取り組み
- ・運用力 KPI について
- ・ファンドガバナンスの取り組みについて

【方針５】利益相反の適切な管理

- ・業務執行部門から独立した利益相反管理統括部署および利益相反管理統括責任者を設置し、利益相反の懸念のある取引の類型を定め、適切な管理を行います。
 - ・スチュワードシップ活動へのガバナンス強化を目的に、構成員の過半数を独立社外取締役とする「責任投資監督委員会」を設置し、議決権行使等に係る利益相反管理を徹底します。
 - ・研修等を通じて、利益相反の適切な管理についての取り組みを従業員一人ひとりに浸透させていきます。
-

（「顧客本位原則」における 原則３及び(注)に対応しています。）

５－（１）利益相反管理

■利益相反管理の実施状況

当社では利益相反を適切に管理するために、利益相反の懸念のある取引の類型化を行い、類型毎に管理方法を具体的に定めています。そして、この管理が適切に実施されていることを業務執行部門より独立した利益相反管理統括部署である法務・コンプライアンス部が定期的に確認する体制としています。

また、お客様の利益を不当に害する懸念がある取引を把握した場合は、独立した立場にある利益相反管理統括責任者である法務・コンプライアンス部長が利益相反の有無を判断し、取引の中止を含め必要な措置を行うこととしています。

このような体制のもと、2020 年度につきましては、利益相反管理上問題となる取引はありませんでした。

なお、管理状況については、社内の内部監査部門で検証するとともに、独立社外取締役を含む取締役会へ報告し、チェックを受けることとしています。

５－（２）議決権行使における利益相反管理



■責任投資監督委員会等を通じた利益相反管理の徹底

当社では議決権行使における利益相反を適切に管理するために、議決権行使の判断基準を具体的に定めると共にホームページで開示しています。

また、独立社外取締役が過半を占める「責任投資監督委員会」を設置し、議決権行使に係る規程・基準の制定・改廃や、利益相反が生じる可能性が高い企業に対する個別議案判断等について事前に協議する体制としています。更に、当社役員や日本生命の役員等が取締役・監査役等に就任している企業等、利益相反が生じる可能性が特に高い企業に対する議決権行使は、議決権行使助言会社の助言に従って判断する体制としています。

このような体制のもと、2020 年度につきましては、6 回にわたり責任投資監督委員会を開催し、議決権行使の内容について協議・確認を行いました。また、「個別の投資先企業および議案ごとの議決権の行使結果」についても、四半期毎に開示致しました。

（ご参考）

「国内株式議決権行使の方針と判断基準」については、以下 URL をご覧ください。

<https://www.nam.co.jp/company/responsibleinvestor/policy.html>

「投資先企業・議案ごとの議決権行使結果」については、以下 URL をご覧ください。

<https://www.nam.co.jp/company/responsibleinvestor/report.html#voting>

【方針 6】人材育成・企業文化醸成

- ・お客様の利益を第一に考えたサービスを支えるために、プロフェッショナル人材を継続的に育成します。
 - ・研修等を通じて、お客様本位の業務運営に係る取り組みを従業員一人ひとりに浸透させていきます。
-

(「顧客本位原則」における 原則 2 及び(注)、原則 7 及び(注)に対応しています。)

当社では、お客様本位の業務運営に係る取り組みが企業文化として従業員一人ひとりに浸透するよう、様々な活動を行っております。

6－（１）人材育成の取り組み

■プロフェッショナルの育成

お客様サービスの向上に継続的に取り組むために、日々の業務における OJT を中心として各分野におけるプロフェッショナルを育成しております。OJT に加えて、業務遂行に必須となる知識習得や専門強化のために証券アナリスト資格（2021 年 3 月末時点で 235 名が保有）取得の奨励等、様々な育成支援制度を設け、高度な専門性を有する人材の育成・確保に取り組んでいます。

■専門知識向上のためのセミナー参加推奨

当社は、日本 CFA 協会※10 のコーポレート・スポンサーになっており、投資専門家の専門知識向上と倫理規範の普及を目指す当協会セミナーへの参加を推奨しております。

※10：1999 年に日本における CFA 協会（Chartered Financial Analyst Institute）の会員組織として発足し、その後 2011 年 4 月に法人化。当協会は、CFA 協会と協調して教育プログラムを実施し、投資運用に関する専門知識の普及を目指しています。

6－（２）企業文化醸成の取り組み

■経営課題ミーティングを通じた「お客様本位の業務運営の取り組み」への意識醸成

当社では、半期に 1 度、全従業員を対象とした経営課題ミーティングを部門毎に実施しております。当該ミーティングでは、経営理念、経営目標とともにお客様本位の業務運営の取り組みの重要性について社長自らが従業員に説明を行い、意識付けを行っております。

■研修等による法令遵守や利益相反管理の徹底

毎年、全役職員向けのコンプライアンス研修を開催するとともに、インサイダー取引規制に関する確認テストやコンプライアンス全般に関する確認テストを実施し、法令遵守の徹底を図るとともに、利益相反管理に関する研修を実施し、利益相反管理の徹底にも取り組んでおります。

※今年度より、「顧客本位原則」における原則及び(注)との対応関係を明示しております。

なお、以下の原則及び(注)につきましては、記載の理由につき実施しておりません。

該当する原則、注	不実施理由
原則 5 (注 2)	複数の金融商品・サービスをパッケージとして販売・推奨等は行っておりません。
原則 6 (注 1,2,4)	直接に金融商品・サービスの販売・推奨等は行っておりません。

参考として、金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」の原則 1～7 について掲載いたします。

金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」	
原則 1	【顧客本位の業務運営に関する方針の策定・公表等】 金融事業者は、顧客本位の業務運営を実現するための明確な方針を策定・公表するとともに、当該方針に係る取組状況を定期的に公表すべきである。当該方針は、より良い業務運営を実現するため、定期的に見直されるべきである。
原則 2	【顧客の最善の利益の追求】 金融事業者は、高度の専門性と職業倫理を保持し、顧客に対して誠実・公正に業務を行い、顧客の最善の利益を図るべきである。金融事業者は、こうした業務運営が企業文化として定着するよう努めるべきである。
原則 3	【利益相反の適切な管理】 金融事業者は、取引における顧客との利益相反の可能性について正確に把握し、利益相反の可能性がある場合には、当該利益相反を適切に管理すべきである。金融事業者は、そのための具体的な対応方針をあらかじめ策定すべきである。
原則 4	【手数料等の明確化】 金融事業者は、名目を問わず、顧客が負担する手数料その他の費用の詳細を、当該手数料等がどのようなサービスの対価に関するものかを含め、顧客が理解できるよう情報提供すべきである。
原則 5	【重要な情報の分かりやすい提供】 金融事業者は、顧客との情報の非対称性があることを踏まえ、上記原則 4 に示された事項のほか、金融商品・サービスの販売・推奨等に係る重要な情報を顧客が理解できるよう分かりやすく提供すべきである。
原則 6	【顧客にふさわしいサービスの提供】 金融事業者は、顧客の資産状況、取引経験、知識及び取引目的・ニーズを把握し、当該顧客にふさわしい金融商品・サービスの組成、販売・推奨等を行うべきである。
原則 7	【従業員に対する適切な動機づけの枠組み等】 金融事業者は、顧客の最善の利益を追求するための行動、顧客の公正な取扱い、利益相反の適切な管理等を促進するように設計された報酬・業績評価体系、従業員研修その他の適切な動機づけの枠組みや適切なガバナンス体制を整備すべきである。

(ご参考)

金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」における原則及び(注)については、以下 URL をご覧ください。

<https://www.fsa.go.jp/news/r2/singi/20210115-1/02.pdf>